

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	広島支部	(2)記載者氏名:	佐々木 弘磨	会員番号:	12693	事務局整理記入欄	広島 - 092
分水嶺区分	W5655尾茂川源流～W565傍示が峠, W571米山峠			(3)山行日:	2005年	7月	9日(4)天候 雨

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

吉村 千春	13850						
吉村 豊	吉村家族						
野間 弘	12662						
佐々木弘磨	12693						
計				4名			
計				名			

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	傍示が峠～尾茂川源流～木谷川～R434,187,12經由～米山峠～ドウギレ峠～小西～平家屋敷跡(幕营地)												
アプローチ:	広島～松ノ木峠～六日市～傍示が峠												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	傍示が峠												
分水嶺到達点W565	傍示が峠	周防広瀬	131	56	23.62	34	19	52.79	376		10:20		
	大野上	周防広瀬	131	56	15.94	34	19	40.57	363	10:25	10:25		(10)
W5655	尾茂川源流	周防広瀬	131	54	57.70	34	20	2.55	506	10:55	11:10		(10)
	(倒木の為、この地点より傍示が峠に引き返す)												
W565	傍示が峠	周防広瀬							376	11:30	12:10		(10)
	木谷川入口	周防広瀬	131	56	0.86	34	15	38.57	125	12:40			(10)
	(崖崩れの為、この地点より傍示が峠に戻り、七日市經由で米山峠へ)												
分水嶺点W571	米山峠	筋ヶ岳	131	51	39.89	34	18	38.31	756	13:50	14:25		(10)
	(ここから、幕营地に車で移動)												
	平家屋敷跡	周防広瀬	131	53	41.24	34	18	59.99	823	15:40			(10)
										総歩行時間(休憩時間を除く):			

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

(9)水および植生に関連した特記事項

(10)その他の特記事項

W565傍示が峠からW568平家岳に至る稜線は、島根県と山口県との県境に位置した分水嶺である。この山域は山深く相当なアルパイトも予想される為、分水嶺稜線の南側にある錦川水系の支流、尾茂川からの登路調査を実施した。

尾茂川の源流は最後には平家岳登山口の尾茂越えに至る。今回は降雨と倒木の為、沢の最深部までの調査には至らなかったが、沢からW566掘田ヶ岳分岐、W567 722.5m峰へは標高差約150～200mを登れば分水嶺稜線に至る。但し、沢沿いの支尾根、谷ともに夏場は藪漕ぎ覚悟が必要となる。

平家の一族が追つてから逃れる為に通つたであろう、錦川水系木谷川沿いの大固屋、木地屋集落を訪ね様としたが、通行止めの看板が立つ。南側からだめなら北側からという事で傍示が峠、六日市、七日市經由で米山峠に向かう

米山峠から分水嶺稜線直下沿いに西に延びる**仏ヶ谷**林道、又、東の分水嶺稜線に至る林道は共に踏査に使用が出来る。米山峠の東側にある林道は中国道米山トンネルの換気口工事のため登路か？ 降雨による崖崩れ、沢の増水を心配しながらドウギレ峠、小西集落を経て幕营地の平家屋敷跡に向かう。

分水嶺データ: W566 掘田ヶ岳分岐682mは、W566掘田ヶ岳分岐652mに訂正。

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
W568E:平家屋敷跡